

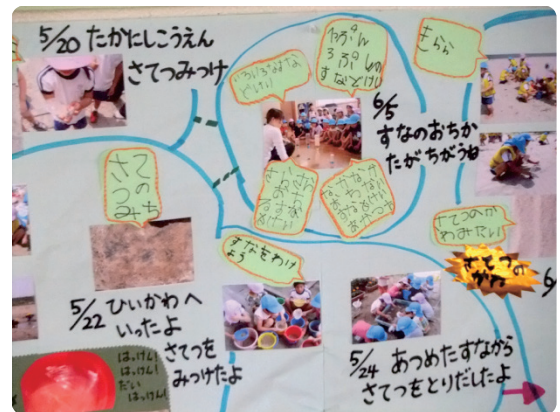
1 主体性を支える援助と環境の工夫

大発見を楽しむ環境～「はっけんかれんだー」を作ろう～ 5歳児

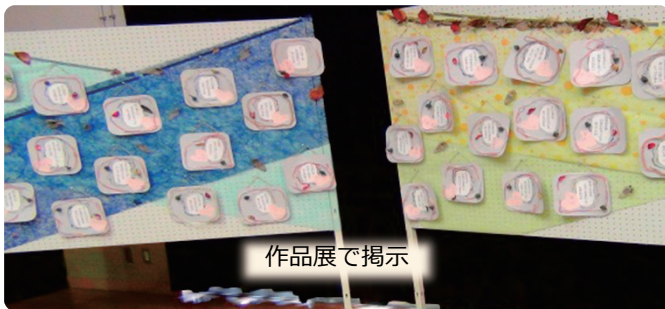
出雲市立塩冶幼稚園

砂場や園庭を掘る遊びがきっかけとなり、砂から砂鉄を取り出したり化石の石を発見したりする体験に繋がった。

子どもたちが不思議に思ったことを調べたり気付いたりする姿に、保育者は何度も出会った。そして、もっと集めたい、試したいという気持ちは尽きることがなく活動が続いたので、子どもたちと相談して『はっけん はっけん だいはっけん かれんだー』を作ることにした。自分たちの活動の写真を見ながら、「ここで砂鉄を見つけたね」「斐伊川には、砂鉄や金うんもいっぱいあったよ」「石の名前がいろいろ分かったね」など友達や保育者と共に活動を振り返った。また、絵を描いたり試したことを書き記したりして、楽しくカレンダー作りを行った。



「ことのは」～体験を言葉にのせて表現する～ 5歳児



「発見カレンダー」や「きらきらポタジエ案内図（関連事例P.15）」により、今までの体験（目的に向かって継続して取り組んできたみんなの共有体験）を振り返ったことは、「自分なりの理解や関連付け」に、結び付いた。そして、積み重ねた体験の中でも特に心に残っていることを一人ひとり表現することが、「ことのは」という作品に繋がった。（「ことのは」は、遊びの中での子どものつぶやき）

「いまがチャンス おしべとめしべ くつつけよ」
 「きょうはあめ ぼたじえに みずやりしてくれる」
 「すてきだな とまとはなは ほしみたい」「うみ（砂浜）は さてつがいっぱい かわみたい」菜園や砂鉄探し、化石探しの中で、子どもたち一人ひとりが体験した、疑問・不思議・気付き・発見などが表現されている。

（関連事例 P.5,15）

「カレンダー」も「ことのは」も子どもたちの発想・疑問・探求などを大切にしています。その表現からは、子どもたちの感性の豊かさや体験の深まりなど「科学する心」の育ちが感じられます。子どもと創りだした掲示の工夫により、子どもたちの体験を、友達同士や、子どもや保育者と保護者間で共有を図ることができます。